

一般社団法人日本がん看護学会誌 査読指針

査読においては、投稿者にできる限り掲載の機会が与えられるように、かつ、よりよい論文となるよう建設的なコメントをお願いいたします。**あいまいな指摘、修正できないような批評や指摘ではなく、投稿者が理解・納得でき、かつ修正可能な具体的指摘内容が重要となります。**

査読のポイントは、がん看護における研究の「重要性」「独自性」「内容妥当性」「倫理性」です。この点を考慮して総合判定をお願いいたします。また、論文の種別に応じた観点で査読をしてください。

日本がん看護学会から多くの論文が輩出されますよう、本指針を参考に、査読作業をすすめていただけますと幸いです。

1. 査読手順

投稿された論文の査読から掲載までの手続きを以下に示します。

平成30年度から査読依頼、原稿送付、査読結果報告書送付など、**査読作業は電子投稿・査読システムでの送信**となります。査読は電子投稿・査読システム上の査読者マニュアルと本査読指針を基に実施してください。

- ① 論文受付後、専任査読者の中から担当査読者を2名選出し、担当編集委員から査読の打診を行う。
- ② 査読の承諾後、担当査読者はシステム上で査読が可能となる。
- ③ 担当査読者から電子投稿・査読システムを通して送信された査読結果を編集委員会で確認後、査読報告を投稿者に送信し、3ヶ月以内の再提出を依頼する。必要に応じて、編集委員会からも投稿者宛にコメントを送信する。
- ④ 修正論文の再査読が必要な場合は、担当査読者に再査読を依頼する。
- ⑤ 再査読結果を編集委員会で確認後、投稿者に送信し、再提出を依頼する。
- ⑥ 編集委員会で修正論文について審議し、掲載の採否を決定する。
- ⑦ 査読者の判断が大きく割れた場合は、第三の査読者をたてることもある。
- ⑧ 採否の決定を投稿者に伝え、著作権譲渡同意書の提出を依頼する。

2. 査読時の留意点

査読の際には以下の点にご留意下さい。

- ① 査読は原則として2回である。初回査読で修正が必要と判断された箇所はすべて指摘し、再査読で修正前の内容について新たな指摘をしない。
- ② 投稿論文のスムーズな掲載を目指して、**査読期間は1ヶ月程度**とする。
- ③ 投稿者が査読者による指摘内容を理解できるよう具体的に記載する。
- ④ 掲載判断が否の場合には、その理由について記載する。
- ⑤ 再査読で大幅な修正が必要である場合は、否と判定し、新規投稿をすすめる。
- ⑥ 倫理的観点から、投稿論文のオリジナリティ保護に留意する（未発表原稿の引用や、他者への内容の照会を行わない）。
- ⑦ 論文取扱いへの配慮（論文漏えいの予防など）を遵守する。
- ⑧ 論文内容から著者が容易に推定され、公平に審査できないと判断した場合は、査読担当を辞退する旨を編集室に連絡する。
- ⑨ 査読の過程で投稿論文が重複投稿（投稿論文と同じものを他の学術雑誌に投稿あるいはすでに採択された論文と同じ内容である）あるいは分断投稿（研究の一部を独立した研究のように投稿する）

の可能性に気がついた場合は編集室に連絡してください。

3. 論文の種類

掲載論文の種類を判断する際には、以下の内容を参考にして下さい。

- ① 原著：がん看護学の発展に寄与すると認められ、**オリジナルなデータもしくは分析に基づいて、新しい知見と実践への示唆が論理的に示されているもの。**
- ② 総説：がん看護に関わる特定のテーマについて広範囲の文献考察を行い、そのテーマに関する現状と展望を明らかにしたもの。あるいは、がん看護に関わる特定のテーマについて体系的な文献検索を行い、同質の研究をまとめて得られた知見を分析・統合したもの。なお、システムテックレビューは総説に該当する。
- ③ 実践報告：がん看護学の発展に寄与すると考えられる実践に関する報告で、その看護の実際を論文形式にまとめたもの。
- ④ 資料：がん看護学に関連する提案・提言、有用な調査や文献検討により研究や実践活動の参考となり、公表の意義があると認められるもの
- ⑤ その他：上記以外において、編集委員会が適当と認めたもの。

4. 査読の視点

査読の際の参考にして下さい。

1) 研究全般について

- ①がん看護学領域に関する研究課題である。
- ②新規性がある。
- ③がん看護学の発展において、学術的価値、有用性がある。
- ④未発表である。
- ⑤文章表現がわかりやすく内容が明瞭で、研究目的から結論までの論旨に一貫性があり完成度が高い。
- ⑥投稿規程にそって書かれている。

2) 項目毎のクリティークについて

- ①研究題目：研究内容を簡潔に明白に表している。key word が適切である。
- ②要旨：目的、方法、結果、考察、結論が明瞭に記載されている。
- ③英文抄録：英文の内容や表現が適切である。
- ④研究の背景：先行研究の十分な検討のもとに研究課題が導かれている。最新の文献が用いられている。
- ⑤理論的基盤：用いられる理論的基盤が、研究領域や研究課題と合致している。
- ⑥研究の意義：意義が明確に示されており、がん看護学領域の発展に寄与するものである。
- ⑦研究目的：明らかにしようとしていることが明確にされている。
- ⑧用語の定義：研究課題にそった用語の定義がされている。定義された研究の概念と調査内容に乖離がない。
- ⑨研究デザイン：研究課題に対して採用された研究デザインは、適切である。
- ⑩研究対象・標本：対象・標本および母集団が研究課題と適合している。対象の選択条件（除外条件）が明記されている。
- ⑪研究の場：研究を行った場の特徴が明確に述べられている。

⑫手続き：データを収集する過程が記述されている。

⑬データ収集法：研究目的、調査内容・測定指標に即して適切である。

⑭調査内容・測定指標：調査内容・測定指標が明確に記されており、研究課題・目的と合致している。

⑮分析方法：データの処理の仕方が明示されており、研究課題に即して適切である。

⑯結果

- ・研究課題・研究目的にそった内容である。
- ・図表の使い方が適切である。
- ・分析手法と結果の示し方が一致している。
- ・順序立ててわかりやすく説明されている。

⑰考察

- ・得られた結果に対する考察である。
- ・研究仮説（がある場合）と結果との関連が述べられている。
- ・結果に対する妥当な解釈である。
- ・先行研究の結果との適切な比較がある。
- ・研究の限界と今後の課題が適切に述べられている。
- ・がん看護実践への示唆が述べられている。

⑱文献：文献のリストが投稿規程にそって書かれている。

3) 倫理的配慮について

- ①倫理審査委員会の承認を得ている。
- ②研究実施のプロセスにおいて必要な倫理的配慮がされている。
- ③対象者への研究参加の説明と同意の手続きが適切に行われている。
- ④対象者が心身の負担、苦痛や不利益を受けない配慮がされている。
- ⑤個人データが守秘され、個人情報保護されている。
- ⑥研究者としてモラルに反していない（引用文献の明記、重複投稿など）。

4) 質的研究における視点について

- ①研究課題（および目的）に即した分析方法が選択されている。
- ②目的にあった対象が選択されている。
- ③分析の厳密性を確保（メンバーチェックなど）する努力がされている。
- ④データに基づいて抽象化する（カテゴリ・概念など）過程がわかるように分析手順が書かれている。
分析に基づき結果が明晰に記述されている。
- ⑤結果（データに基づく事実）と考察（解釈）が明確に分けて記述されている。

5) 量的研究における視点について

- ①概念枠組みが明確で、研究目的と結びついている。
- ②仮説、変数が明確にされており、変数は枠組みに示されている概念を反映している。
- ③介入を行う場合は、内容が明確に記述されている。
- ④研究課題に即した母集団、対象者数が設定されている。
- ⑤測定指標の信頼性と妥当性が明記されている。
- ⑥目的に即した統計方法である。

⑦仮説の検証がなされ、適切に考察されている。

(平成 25 年 1 月 12 日 作成)

(平成 27 年 2 月 27 日 改正)

(平成 28 年 11 月 27 日 改正)

(平成 30 年 7 月 1 日 改正)